北海道大学国際連携機構
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL +81(0)11-706-4411
MAIL collabo@oia.hokudai.ac.jp
WEB https://www.studyinjapan-africa.com

日本留学海外拠点連携推進事業

（サブサハラ・アフリカ地域）

事業案内

Study in JAPAN for Africa

目　次

1. ご挨拶…… 4

2. 留学コーディネーター活用事例…… 5

3. 支援内容の紹介…… 6

4. 活躍するサブサハラ・アフリカ出身者…… 7

5. 留学希望者に向けた留学生・卒業生からのメッセージ…… 8

6. アフリカ人ネットワークからのメッセージ…… 10

7. 事業概要…… 11

8. オンサイト（現地）での取り組み…… 12

9. オンラインでの取り組み…… 13

10. サブサハラ・アフリカから日本への留学生動向…… 14

11. サブサハラ・アフリカにおける日本語学習の状況…… 15

添付 1：国別情報…… 17

添付 2：渡日前入試を実施する学部コース一覧 2020…… 34

添付 3：サブサハラ・アフリカ—日本の大学間における協定校リスト…… 40

添付 4：サブサハラ・アフリカからの留学生向け奨学金リスト…… 56

ご　挨　拶

北海道大学アフリカルサカオフィス所長
大学院獣医学研究院教授　**奥村　正裕**

北海道大学アフリカルサカオフィスは、サハラ砂漠以南アフリカ（以下、サブサハラ・アフリカ）地域における北海道大学の在外情報発信拠点として、2012 年にザンビア共和国の首都ルサカにある最高学府ザンビア大学内に開設されました。これは、本学とザンビア大学間における 30 年を超える長期間の協力・連携関係によるものです。

開設以来、本オフィスではザンビア共和国をはじめ、アフリカ地域での北海道大学の広報、留学生の誘致、研究者交流のサポートを実施してきました。本学では、獣医学、感染症学、工学、農学、理学、環境科学、人文科学などの分野において研究者や学生の交流が行われおり、さらに多くの分野において研究者や学生の交流が活発に行われるよう活動していきたいと考えています。

2014 年、北海道大学では文部科学省から 5 年間、サブサハラ･アフリカ地域を担当する留学コーディネーターをアフリカルサカオフィスに配置する事業（留学コーディネーター配置事業）を受託し、本学のみならず、本邦すべての大学を対象に、留学を通して高い教育を受けることを希望する現地の優秀な学生の誘致活動を実施してきました。その間、在外公館、邦人団体・企業、現地での教育・研究活動を実施されている本邦大学関係者、アフリカ各国の政府や大学関係者など、多くの方々の多大な協力をいただき、総数はアジア地域には遠く及びませんが、日本への留学生および希望者の数とその広がりの基盤形成を目指してきました。2019 年には、文部科学省よりさらに 5 年間の予定で「日本留学海外拠点連携推進事業」を受託し、同事業の新たな拠点として、ケニア共和国の日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター内にアフリカルサカオフィスのサテライトオフィスを開設いたしました。留学コーディネーターは、そのサポートスタッフを含めて 6 名に拡充され、優秀な留学希望者に対して留学後のキャリアパス形成も視野に入れることができるような情報発信を日々心掛けて活動しています。

現在、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大によって停滞する社会・経済的な環境においても、留学コーディネーターたちは、高い教育を希求する現地の優秀な若者たちに日本留学のすばらしさを広報して留学の希望を持ち続けるよう激励しつつ、近い将来日本で勉強し、本人たちのみならず、受け入れていただいた大学、日本社会にも貢献してくれることを目指して活動を展開しています。アフリカでの高等教育を希望する学生の流動性は極めて高く、必ずしも初等・中等教育環境のすぐれない環境でその頭角を現し、語学の適応性に長けたそれらの学生たちは高いポテンシャルを持っていると期待されます。日本の大学の関係者・教育担当者の皆様におかれましては、是非ともご自身の指導を受ける学生の一人として、将来有望なアフリカからの留学生の受け入れをご検討いただけますと幸いです。

本文に、私共の本年度の活動内容を紹介させていただきます。今後とも、留学コーディネーターの活動にご理解とご協力をお願いさせていただくとともに、留学コーディネーターを貴学のアフリカにおける留学広報に是非ともご活用ください。私ども、北海道大学アフリカルサカオフィスは、日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点として、これからも日本とサブサハラ・アフリカの教育・研究の架け橋として尽力してまいります。

日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点
～留学誘致活動の事例紹介～

貴学の国際化推進そして多文化共生の実現に、ぜひ本事業サブサハラ拠点をご活用ください！

1.個別留学相談対応

留学希望者より問い合わせのメールが本拠点に入る➡目標や希望コースなどを丁寧にヒアリング、メールでカウンセリングとアドバイス（計10回以上）➡紹介したコースに本人が応募、合格

九州、北海道の大学

2.持続的な機会提供

（日本語教育➡短期留学➡国費留学）現地大学で日本語講座を受講➡本拠点を通じて国内大学へ短期留学➡本拠点が申請支援し、国費奨学生に合格（複数事例）

日本語教育が留学に繋がった

3.日本国内の研究者支援

（研究者紹介➡大学間協定➡留学選考補佐）本事業主催の留学フェアに参加した日本の大学に現地大学を紹介➡両大学間において学術交流協定の締結➡国費留学生受け入れに際して奨学金制度説明や選考などの支援

甲信越の大学

4.奨学金候補者のマッチング

留学フェアに参加した成績優秀者を国費奨学金制度（大学推薦枠）をもつ日本の大学に紹介➡本拠点による調整➡推薦、合格

海洋系大学

5.大学間連携構築支援

本拠点（ザンビア大学内）を訪問した日本の大学からの研究者の希望に沿って、ザンビア大学の国際関係部署や研究者を紹介➡大学間ネットワーク構築の支援

東北、四国、関西の大学

北海道大学アフリカルサカオフィス（ザンビア大学内）

3 支援内容紹介

日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点による日本の教育機関へのサポート

◆ 日本を身近にするオンライン広報（ホームページ、Facebook、Twitter）

- ▶留学生たちの日本での生活・就学の様子をサブサハラ・アフリカ地域に向けて発信！
- ▶各大学の教育課程情報、申請日程などをサブサハラ・アフリカに向けて紹介！

◆ 多様な留学ターゲット層への各大学のアプローチ支援

ぜひ貴学の情報をお寄せください

- ▶サブサハラ・アフリカの大学や高校、日本語教育を含む教育機関などへの留学広報を支援！
- ▶サブサハラ・アフリカで留学フェア、説明会などを開催し、直接アピールの場を提供！

◆ きめ細かなマッチング・サポート

アフリカの優秀な学生を貴学と結びつけます

- ▶学生交流の基盤となる大学間協定の締結を支援！
- ▶各大学への入学希望者の紹介、各大学からのサブサハラ・アフリカに関する各種問合せに対応！
- ▶入試・入学手続き等、サブサハラ・アフリカの申請者への渡日前フォロー！

お気軽に、お問い合わせください

日本留学海外拠点連携推進事業
サブサハラ拠点
（北海道大学アフリカルサカオフィス、ナイロビサテライト）

studyinjapan@oia.hokudai.ac.jp

ホームページ	https://www.studyinjapan-africa.com/ 日本語
ポータルサイト（英語）	https://studyinjapan-africa-portal.com
Facebook（英語）	https://www.facebook.com/STUDYinJAPANforAFRICA
Twitter（英語）	https://twitter.com/StudyJPN_africa

ホームページ　Facebook　Twitter

4 活躍するサブサハラ・アフリカ出身者

【日本留学を経験し、活躍するサブサハラ・アフリカ出身者の記事等】

①『アフリカ出身者として初めて日本の大学の学長に就任』
ウスビ・サコさん、マリ共和国出身、元留学生（京都大学）、現 京都精華大学学長
https://www3.nhk.or.jp/news/special/education/articles/article_22.html （NHK 2020 年 7 月 31 日）

②『ナイジェリア人留学生の挑戦・日本の養殖技術で母国の食糧不足の解決を目指す』
イフェアニー・チュクさん、ナイジェリア出身、現役留学生（北海道大学）
https://www.youtube.com/watch?v=giCXVTCG-iU （NHK 2020 年 3 月 23 日）

③『感染症克服に挑む、抗菌タンパク質を薬に』
ニヨンサバ・フランソワさん、ルワンダ出身、元留学生（順天堂大学）、現 順天堂大学教授
http://www.ifsa.jp/index.php?cmd=read&page=Africa11&word=%E3%82%A2%E3%83%95%E3%83%AA%E3%82%AB
（国際留学生協会向学新聞 2019 年 6 月 1 日）

④『ジョモ・ケニヤッタ農工大学の女性学長は元日本留学生』
ヴィクトリア・ワンブイ・ングミさん、ケニア出身、元留学生（広島大学）、現 ジョモ・ケニヤッタ農工大学学長
https://www.kenet.or.ke/content/prof-victoria-wambui-ngumi-phd （Kenya Education Network Trust）

⑤『内戦や医療の不備などに苦しむ母国ウガンダの女性を支援』
バゲンダ・ドミニクさん、ウガンダ出身、元留学生（北海道大学）、現 はこだて未来大学准教授
https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-n510f7681c862 （NHK 2021 年 1 月 27 日）

⑥『ザンビアの教育力を上げる取り組み』
ベンソン・バンダさん、ザンビア出身、元留学生（広島大学）、現 ザンビア教育省国立科学センター所長
https://www.jica.go.jp/publication/mundi/202007/ku57pq00002mat72-att/06.pdf （JICA 2020 年 7 月 16 日）

⑦『地域おこし協力隊に！、大阪マラソン優勝者』
ガンドゥ・ベンジャミンさん、ケニア出身、元留学生（日本大学）、現 壬生町地域おこし協力隊員
https://www.town.mibu.tochigi.jp/docs/2020080700018/ （壬生町公式 WEB 2020 年 8 月 14 日）

⑧『元日本留学生、ガーナ大学の学長に就任』
エベネゼ・オウスさん、ガーナ出身、元留学生（高知大学）、現 ガーナ大学総長
https://www.gh.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000099.html （在ガーナ日本国大使館 2017 年 11 月 3 日）

⑨『元日本留学生、駐日ナイジェリア大使に』
モハンメド・ガナ・イサさん、ナイジェリア出身、元留学生（北海道大学）、前　本邦駐箚ナイジェリア連邦共和国大使
https://www.japantimes.co.jp/jnu/2018/05/14/jnu-embassy/jnue-africa/embassy-of-the-federal-republic-of-nigeria/mohammed-gana-yisa/
（The Japan Times 2018 年 5 月 30 日）

⑩『王立英国建築家協会の 2021RIBA ゴールドメダル受賞』
デイビッド・アジャウィさん、ガーナ出身、元留学生（京都芸術大学）、芸術家（王立英国建築家協会の 2021RIBA ゴールドメダルを受賞）
https://architecturephoto.net/102314/ （architecturephoto　2020 年 10 月 4 日）

⑪『地方の人材不足に新戦力 外国人留学生で活路拓く–アフリカ人留学生の魅力』
https://ybs.yomiuri.co.jp/cabinet-office/africaseminar/ （YOMIURI BRAND STUD　2020 年 2 月）

Mr. Yves Petemoya Clinton

Democratic Republic of the Congo

Bachelor Course in Civil Engineering, University of Fukui

日本語で工学知識を学ぶことを重要視した学部課程への留学生。あしなが育英会からの奨学金を得て渡日。（なお、あしなが育英会・あしながウガンダ心塾と本事業も連携をはかっている。）

2020 年 7 月提供

Currently, I am studying Civil Engineering at the University of Fukui. Before starting my university, I went to a Japanese language school for one year and half. The goal of this program is to prepare for university's application and to get a necessary level of Japanese for studying in a Japanese university in Japanese.

I decided to study in Japanese because I want to learn more from Japanese about civil constructions. To interact with Japanese civil engineers, understand their thoughts and learn how they have developed the Japanese railway traffic, it will help me when I go back to my country to contribute for it's development as well.

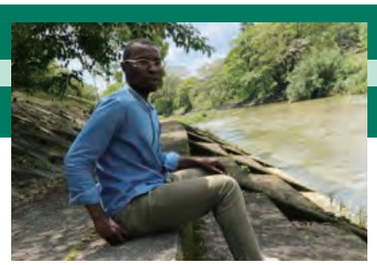
In the future, I would like to become a civil engineer and contribute to the development not only of my country but wherever the traffic network still undeveloped. That is the reason why I choose to study in Japan, and get knowledges on how to build roads, bridges, tunnels, etc.

Japanese universities are great places where you can meet and interact with people of all around the world. Also, Japanese universities prepare student efficiently for their future career with practical classes and experimentations. —You won't get bored.
///////////////
He is one of successful recipients of Ashinaga Africa Initiative
https://en.ashinaga.org/

Mr. Celso Luís Fernando

Mozambique

PhD course, Traffic Engineering, Ehime University



アフリカで大きな課題となっている交通事故の減少を目指して研究に取り組む博士後期課程の院生。大学間協定が日本留学を導いたケース。

2020 年 6 月提供

My studies are on road accident risk prevention. In my master's degree, I analyzed the effects of different road environments conditions on the road's accident occurrence. Specifically, I focused on porous asphalt pavement material. Now, in my Ph.D., I am using artificial intelligence (AI) to develop a real-time accident risk prediction model for a road network scale. The focus is on the selection of the best factor for prediction and interpretability purposes of the model output.

I chose to study in Japan because of the relationships between Ehime University and Lurio University in Mozambique (my workplace). There is a Memorandum of Understanding (MOU) for the alliance.
After my studies, I will work as a researcher. I want to implement a laboratory for urban traffic studies. I, strongly, believe that my work will contribute to reducing the number of road accidents, traffic congestion and other road incidents.

Studying in Japan allows you to experience a different working culture. It is interesting to see how people are committed to their business. The ultimate goal of whatever they do is to make their life easy, this is my impression.
For example, sensing technology, house building techniques, etc.
Japan is, undoubtedly, a place where African youth who wish to work for a better home country should come and get experience.

Mr. KOUAKOU Koffi Valerie

Cote d'Ivoire

Master of Business Administration (MBA), Kwansei Gakuin University
Working at Unilever Japan / Zuiko Corporation, Tokyo / Osaka, Japan

日本で MBA を取得後に日本で就職して 6 年間働き、母国に戻って日系企業の西アフリカ支店で、総務部長兼セールス・マーケティングマネージャーとして活躍しているケース。

2020 年 7 月提供

I am from a country that produces about 45% of world cocoa output. So, my MBA thesis focused on the supposed benefit of fair-trade to cocoa farmers in developing countries, and especially to Ivorian farmers. A team of interviewers were sent in different locations in Cote d'Ivoire to interview 800 farmers on their farming practice, their revenue, and their awareness of Fair-trade. The findings of the questionnaire helped develop the thesis.

After my university degrees, I worked during 6 years in Japan before returning to the Ivory Coast. I currently work as the General Affair Director / Sales and Marketing Manager for the West African subsidiary of the Ajinomoto Group in Cote d'Ivoire.

Studying in Japan opened unthinkable doors to me. It was indeed a rich and unique experience in term of culture, knowledge, and know-how development. This is the opportunity to broaden your mind and expand the opportunities ahead. You will experience a "bizarre" world of high end technology harmoniously cohabiting with centuries old traditions and culture. I strongly recommend it to any young African wanting to build up essential skills and learn a whole new philosophy of life.

Ms. Nawshin MAHADOOA

Mauritius

Masters in Marine Science in the course of Marine Policy and Management,
Tokyo University of Marine Science and Technology[TUMSAT]
Working at Economic Development Board, Port Louis, Mauritius

政府人材として日本に留学し海洋分野政策を研究。島嶼国であるモーリシャスに帰国後、貿易・海運の推進を担当している。

2020 年 7 月提供

I studied Marine Policy and Management at TUMSAT https://www.kaiyodai.ac.jp/graduateschool/ which has world class facilities for Marine Sciences and Marine Policy studies. Through the interactive lectures and seminars by eminent professors, I have gained incredible knowledge about Marine Trade, Peace and Security, International Laws of the Sea, Sustainable Development Goals, and Marine Environmental Policy amongst others. The university has a big number of foreign students coming from all over the world for their master's degree or exchange programs. My research was related to conflict resolution of the natural resources utilization in the coastal areas of Mauritius. I learned about the dynamism of the coastal areas in supporting coastal livelihood, environmental ecosystem, tourism industry, and the fisheries industry and studied various mechanisms for conflict resolutions.

I was awarded the ABE Initiative Scholarship in 2016 and I resumed my position at the Economic Development Board after completing the masters degree and an internship at one of the leading consultancy firm in Japan. I am now involved in activities to promote trade and investment in new industries which also covers technology and innovation happening in the development of the marine and maritime industry. I am also the country manager for Kakehashi Africa https://www.facebook.com/kakehashiafrica/ - an NGO established to bridge Japan and Mauritius through ABE-Initiatives scholars.

I would recommend anyone who wants to experience the profound meaning of societies to consider Japan for their life education. The Japanese culture, in itself, is a kind of religion that enshrines respect, modesty, politeness, cleanliness and most importantly the culture of never giving up.
Whether you will be in Tokyo or in Kyoto, you will experience the art of living through all the four seasons that come with their own set of colors and flavors.

6 アフリカ人ネットワークからのメッセージ

※アフリカにとって日本は地理的に遠い上に、知人や友人もいないために社会的にも遠いイメージが強い。そこで、日本留学への不安感を和らげてもらえるよう、日本で活動しているアフリカ人ネットワークや、日本とアフリカをつなぐアフリカ人ネットワークを留学希望者向けに紹介している。

Hokkaido University African Student Association (HUASA)

本留学生団体は連絡先を開示し、アフリカ現地で日本留学を検討している方からの相談も歓迎している。
2020 年 8 月提供

Hokkaido University African Student Association (HUASA) was created with the intention of bringing African students together, helping them feel at home while studying abroad. In addition, HUASA also serves the purpose of bridging the academic gap between Hokkaido University research leaders and African students, as well as strengthening ties between Africa and Japan. HUASA is involved in promoting African culture among foreign nationals through activities which showcase the rich beauty in diversities of African dances, songs and foods as well. You are welcomed to visit or join us and learn something more exciting about Africa and African students in Japan.

Japan is generally foreigner friendly with a high level of security. It is that country that accepts all individuals irrespective of your skin color. In addition, Japanese universities (e.g. Hokkaido university) provides a rich and conducive environment for research thus making study life interesting and convenient. Finally, Japan is richly blessed with the beauty of nature and there are so many exciting and breath-taking places to visit in Japan.

If you need to get engaged in research activities that are relevant, oriented to sustainability and impactful to society, then start thinking of Japanese Universities. Again, finding and identifying with a community of your national will be very helpful in making your study in Japan more memorable.
Visit our Facebook and feel free to contact us - https://www.facebook.com/HUASAJapan/

Kakehashi Africa

アフリカからの留学生とその卒業生によるネットワークであり、日本とアフリカ 5 地域（東西南北および中央）に支部、各国現地に国担当を設置する組織。日本社会・企業との架け橋を目指す。留学希望者の相談も歓迎している。
2020 年 8 月提供

Kakehashi Africa is an organization founded by ABE (African Business Education) Initiative students that are or have studied in Japan. Kakehashi which means bridge in Japanese, was created with the mandate of creating a bridge between Japan and African markets for the sustainable development of our societies. With a 1000+ members from every country in Africa our mission is the exchange of reliable knowledge, matching of needs and resources and building of trust between our societies.

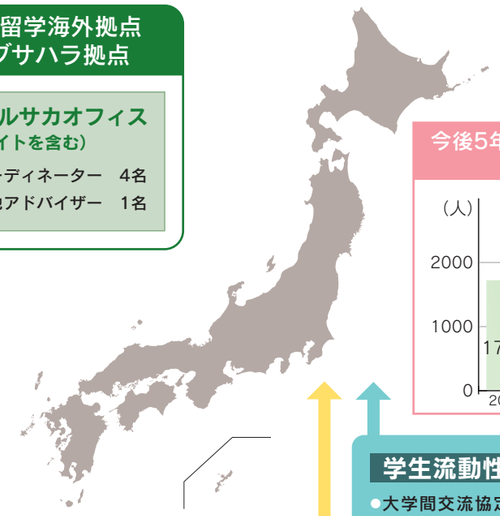
Japan is renowned for its safety, technological advancements and focus on research. This is an excellent environment to focus on education. The cultural exchange is also important in our globalized economy, therefore understanding how Japan functions, not only within business, but from an administrative perspective, will allow us to create sustainable change within our own countries.

We highly recommend Japan to any prospective students, because as an educational destination, there are not many countries that can compete with Japan. Japan is a nation with a rich culture and history which adds an unexpected value to the educational experience. This is a nation renowned for its safety, with people that are always willing to assist when you are in need. Japan is also the top technological countries in the world and are always looking to improve through constant research, hence our recommendation.
Feel free to contact us - https://www.kakehashiafrica.com/contact-us/

7 事業概要

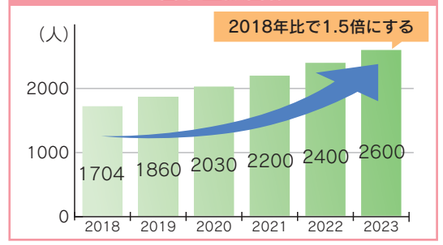
文部科学省　日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点

北海道大学アフリカルサカオフィス
（ナイロビサテライトを含む）
■所長　1名　■留学コーディネーター　4名
■事務職員　1名　■現地アドバイザー　1名



活動の活性化　情報提供　サポート・協働

今後5年間のサブサハラ・アフリカからの留学生数目標



北海道大学国際連携機構・国際部
- 日本の大学と留学コーディネーターとの連携のサポート
- 予算、庶務、人事関係手続き

学生流動性の活性化
- 大学間交流協定締結への支援
- 優秀な留学生獲得のための情報収集
- 研究者交流の促進支援
- 日本人学生の現地教育支援

学術交流ワークショップ（ガーナ）

国内各大学
- 留学フェアへの参加誘致
- アフリカ学生受入に関する情報提供
- 留学関連情報の共有

省庁および関連機関等
- 留学生誘致活動の共有

留学支援団体
- 奨学金情報共有
- 広報活動の協働

留学生誘致に向けて
- 日本留学フェア開催（学術交流ワークショップを併催）
- 広報（日本への留学案内）
- 学生・研究者交流支援促進

留学希望者への情報提供
- 日本の奨学金および修学制度の説明・紹介
- 日本語学習サイトの紹介
- 日本語教育コース設立支援（ザンビア）

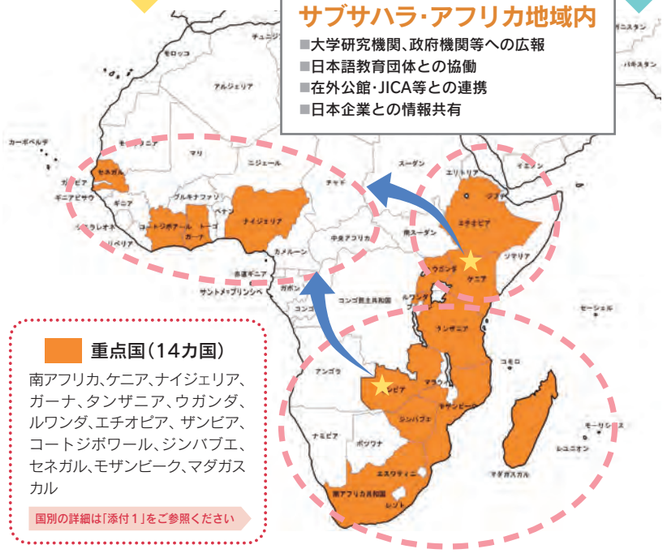
日本留学フェア（南アフリカ）

日本留学海外拠点連携推進事業の概要

オールジャパンで日本留学を促進するためのハブとして
- 本学と交流のある国・機関に加え、当該域内で更に活動を拡大
- 日本の大学、関連省庁、在外公館、JASSO、JICA、JSPS、日本語教育機関、留学支援団体、日本企業等との情報共有および協働

日本留学を促進するための活動
- 当該域内の大学、教育機関等と協力した、日本留学フェアの開催
- 日本の大学が出席し、直接広報・留学相談が出来る機会の提供
- 遠隔地の国に所在する在外公館を通じた留学情報の提供
- 留学申請手続き等に関する支援
- 留学希望者と日本の大学のマッチング支援と留学希望者への情報提供
- 受入れ大学とのインターネットを活用した面接・試験等の補助
- 留学後のフォローアップ体制構築
- 日本留学経験者のネットワーク形成

サブサハラ・アフリカ地域内
- 大学研究機関、政府機関等への広報
- 日本語教育団体との協働
- 在外公館・JICA等との連携
- 日本企業との情報共有



重点国（14カ国）
南アフリカ、ケニア、ナイジェリア、ガーナ、タンザニア、ウガンダ、ルワンダ、エチオピア、ザンビア、コートジボワール、ジンバブエ、セネガル、モザンビーク、マダガスカル

国別の詳細は「添付１」をご参照ください

8 オンサイト（現地）での取り組み

日本留学フェアの開催

●2019 年度 開催回数　年 3 回　　●開催国　南アフリカ・ケニア・ガーナ
●日本の参加大学数（延べ）　現地 28 校、資料 68 校

日本留学フェア（南アフリカ）

日本留学フェア（ガーナ）

学術交流ワークショップの開催

●2019 年度 参加大学総数（延べ）　26 校（日本側：14 校、アフリカ側：12 校）

学術交流ワークショップ（ケニア）

●Face-to-face による大学間交流の促進
●大学間（学生交流）協定の締結支援
＊日本とアフリカの大学間交流協定のリストは「添付 3」をご参照ください。

現地開催の日本留学フェア実績

開催日	開催地	共催大学・機関	参加者数	日本の参加大学	
				現地	資料
2015 年 3 月	ザンビア・ルサカ	ザンビア大学	227	1 大学	12 大学
2015 年 9 月	南アフリカ・プレトリア	プレトリア大学	300	8 大学	11 大学
2016 年 2 月	タンザニア・ダルエスサラーム	ダルエスサラーム大学	357	4 大学	9 大学
2016 年 10 月	ケニア・ナイロビ	ナイロビ大学	500	7 大学	16 大学
2017 年 2 月	ガーナ・アクラ	ガーナ大学	450	7 大学	21 大学
2017 年 9 月	エチオピア・アディスアベバ	アディスアベバ大学	300	7 大学	20 大学
2018 年 2 月	ルワンダ・キガリ	ルワンダ大学	1,000	7 大学	13 大学
2018 年 9 月	南アフリカ・ケープタウン	ケープタウン大学	140	9 大学	19 大学
2019 年 2 月	ウガンダ・カンパラ	マケレレ大学	170	4 大学	25 大学
2019 年 5 月	南アフリカ・プレトリア	在南アフリカ共和国日本国大使館	330	12 大学	20 大学
2019 年 9 月	ケニア・ナイロビ	在ケニア日本国大使館	240	9 大学	22 大学
2019 年 11 月	ガーナ・アクラ	在ガーナ日本国大使館	242	6 大学	24 大学

9 オンラインでの取り組み

オンライン日本留学フェアの実施（2020 年度）
（4 か国に向け 4 回実施、参加者数総数：2,229 名、日本の参加大学延べ総数：156 校）

※アフリカの通信事情（動画視聴の制約）やスマートフォン利用者を考慮➡各国毎の Facebook グループでのライブ配信とメールとオンデマンド配信

配信側（日本国内）

参加者側から見た画面（アフリカ国内）

●ライブ配信（モーリシャス、南アフリカ）
参加者数：87 名（モ）、635 名（南ア）　日本の参加大学数：35 校（モ）、43 校（南ア）

配信側（日本国内）

参加者側から見た画面（アフリカ国内）

●メールとオンデマンド配信（マダガスカル、エチオピア）
参加者数：760 名（マ）、747 名（エ）　日本の参加大学数：37 校（マ）、41 校（エ）

特定のプログラムを紹介する情報発信ウェビナーの実施（2020 年度）
（計 14 ヵ国、54 の高校、参加者延べ総数：356 名）

高校生を対象とした、各回 1 つの大学による学士課程プログラムを紹介するシリーズ（計 3 回）を実施

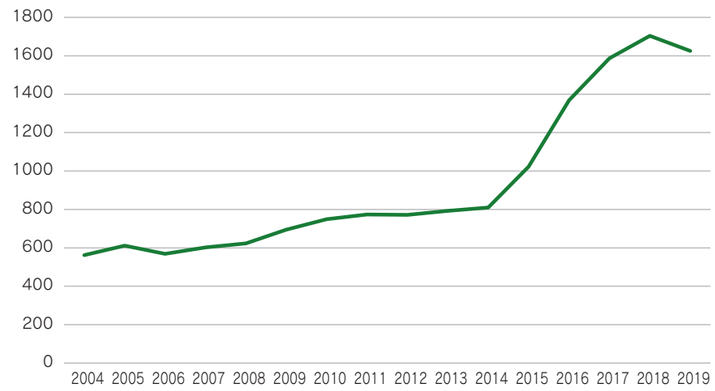
●事前調査で得た、現地で人気の高い理系分野を紹介
●日本の大学、アフリカ人留学生、及び現地の高校の担当者を交えて、対話型で活発な質疑応答を実現
●現地の高校生と日本側の大学もライブで参加できる時間帯を考慮

紹介する各大学とプログラムを交えた事前広報

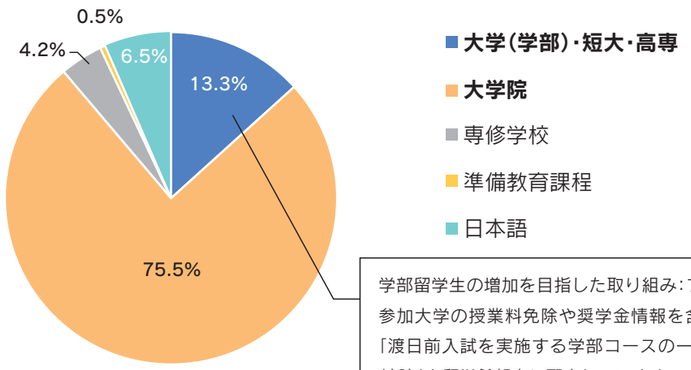
参加者側から見た画面(アフリカ国内)

10 サブサハラ・アフリカから日本への留学生動向

❶ 日本におけるサブサハラ･アフリカ留学生数の推移(JASSO 2020)

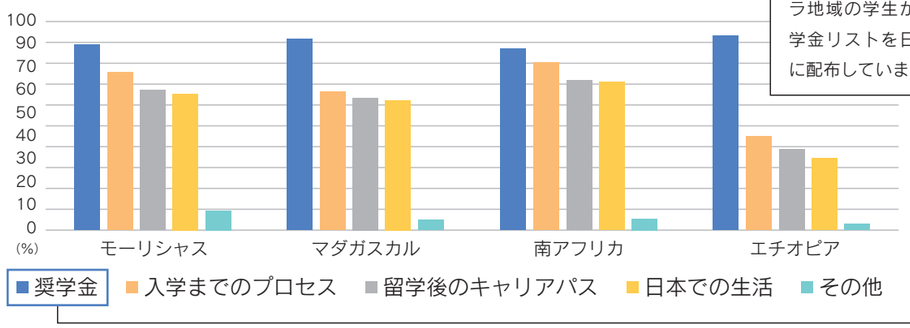


❷ 日本におけるサブサハラ･アフリカ留学生在学段階別(JASSO 2018)



学部留学生の増加を目指した取り組み：フェア参加大学の授業料免除や奨学金情報を含めた「渡日前入試を実施する学部コースの一覧(添付2)」を留学希望者に配布しています。

❸ 留学希望者が日本留学に関して知りたい情報
(2020年度オンライン日本留学フェアのアンケート結果)



サブサハラ地域からの日本留学希望者が事前に知りたい情報のトップは「奨学金関連」であるため、「添付4」のサブサハラ地域の学生が応募可能な奨学金リストを日本留学希望者に配布しています。

11 サブサハラ・アフリカにおける日本語学習の状況

サブサハラ･アフリカにおける日本語教育実施状況(国際交流基金2017)

機関数:68

(①ケニア31、②マダガスカル15、③コートジボワール7 等)

教師数:126人

(①ケニア48人、②マダガスカル28人、③コートジボワール15人)

学習者数:7,092人

(①コートジボワール2,662人、②マダガスカル1,537人、③ケニア1,107人)

日本語学習者は大幅増加傾向

各国の日本語教師会

エチオピア、ケニア、マダガスカル、ガーナ、コートジボワール等

日本語能力試験(JLPT)実施国

N2以上の合格者はあまり多くないのが現状

ケニア、マダガスカル、南アフリカ、ガーナ、コートジボワール、ベナン、コンゴ民主共和国

日本人日本語教育関係者

①国際交流基金日本語専門家：
- ケニヤッタ大学(ケニア)

②JICA海外協力隊：
- ザンビア大学(ザンビア)
- アンタナナリボ大学(マダガスカル)
- ドドマ大学(タンザニア)
- セント･トーマス大学(モザンビーク)

③民間の日本人教師
- アディスアベバ大学、メケレ大学(エチオピア)
- プレトリア大学(南アフリカ)
- ベナン、コンゴ民主共和国、ナイジェリア等

第1回アフリカ日本語教育会議(2019年エチオピアで開催)におけるアフリカの参加国